

大学の世界展開力強化事業（平成25年度採択）中間評価結果表

大 学 名	早稲田大学
整理番号	6
事 業 名	AIMS7 多言語・多文化共生プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	
<p>本事業は、早稲田大学国際教養学部の「アジア・リベラルアーツ・キャンパス構想」をベースに、ASEAN 諸大学と連携してコンソーシアムを形成し、柔軟性、適応性をもって世界益とともに地域益をも追及し、利害が複雑に絡むあらゆる国際的な舞台上で活躍できるコスモポリタン人材を輩出することを目的としている。</p> <p>AIMS プログラムのスキームを活用した本事業を、早稲田大学の国際化構想の一翼を担うものとして位置付け、単位認定や成績管理等の質保証を伴った英語による交流プログラムが行われている。派遣については、国際教養学部だけでなく多くの学部から学生の参加がある中で、ASEAN 地域における多言語・多文化共生社会の体験は新鮮に受け止められており、母国語、英語、現地語の組み合わせによる多文化理解という目標に近づきつつある。今後予定されている豊富な分野の講義や共同ゼミによる有機的な連携により、ASEAN 5 カ国からの受入学生との交流を深め、より一層のキャンパスの国際化が期待できる。</p> <p>受入・派遣学生に対するサポート体制については、事業独自の奨学金制度（国際教養学部 AIMS 受入学生修学支援奨学資金）の設立や、現地語事前学習のための担当教員の配置など、着実に整備されている。</p> <p>中間評価までの目標の達成状況については、派遣学生数は目標を達成しており、受入学生数は計画を前倒して実施したことにより目標を上回る実績を上げている。また、AIMS プログラムにおける授業科目数についても、平成26年度には数値目標を大幅に上回っており、おおむね良好と言える。</p> <p>今後は、多言語・多文化共生に関わる能力の定義が抽象的なレベルにとどまらないよう、更に検証を進め、評価方法の確立を目指すことが望まれる。特に、派遣学生の現地語能力の測定方法については、現在行われている自己評価の妥当性を含めて検証し、より効果的な評価方法を開発することが望まれる。</p>	